

入場無料

新宿文化センター開館40周年記念

新宿区

「晩秋に味わう古典芸能の会」

名誉区民

令和元年11月5日(火)14時開演

競演会

新宿文化センター 大ホール(新宿6-14-1)



東海道中膝栗毛

とうかいどうちゅうひざくりげ

新内節浄瑠璃 鶴賀若狭掾
八王子車人形 西川 古柳座

主催 公益財団法人新宿未来創造財団

島の千歳

しまのせんざい

唄 東音宮田哲男 ほか
三味線 東音宮田由多加 ほか
立方 西川 箕乃助
小鼓 田中傳左衛門

都風流

みやこふうりゅう



鶴賀若狭掾



東音宮田哲男

人間国宝であり
名誉区民の
長唄方
東音宮田哲男、
新内節浄瑠璃
鶴賀若狭掾による、
最高峰の古典芸能を
ぜひお見逃しなく！



新宿区名誉区民競演会

～晩秋に味わう古典芸能の会～

令和元年11月5日(火)14時開演 新宿文化センター大ホール



とうおんみやたてつお

東音宮田哲男

長唄唄方 払方町在住

昭和9年3月25日、北海道札幌市生まれ。中学一年生より長唄の修行を始める。昭和28年、東京芸術大学音楽部邦楽科に入学、山田抄太郎教授に師事、薫陶を受ける。昭和32年、東京芸術大学研究科(大学院)に入学、長唄東音会創立に同人として参加。昭和63年文化庁

芸術祭賞受賞、平成元年芸術選奨文部大臣賞受賞、平成2年NHK CD全集「長唄の美学」収録開始、159曲を独吟で収録し平成10年に完成、長唄の普及、後継者の育成に力を注ぐ。平成4年モービル音楽賞受賞、平成7年松尾芸能賞邦楽優秀賞受賞、平成10年に、重要無形文化財(人間国宝)の認定を受ける。平成12年新宿区名誉区民顕彰、平成12年紫綬褒章受章、平成15年日本芸術院賞受賞、平成26年旭日小綬章受章、平成27年日本芸術院会員に就任する。

みやこふうりゅう

都風流



久保田万太郎 作詞 四世吉住小三郎・二世稀音家浄観 作曲
昭和二十二年初演

今は昔の浅草界隈の風物詩ともいえる作品です。内容は川を上る白帆、千成市の昼の雨、草市の宵の月と虫売り、菊供養と仲見世の賑わい、べったら市、おはぐろどぶ、歳の市の雪に傘、俳味豊かないくつかの詞章を歳時記風に綴り合わせています。そしてその間に虫の合方、新内流し、歳の市の雑踏を描いた合方がまるで挿絵のように折り込まれており、小品ながらも味わい深い名曲です。

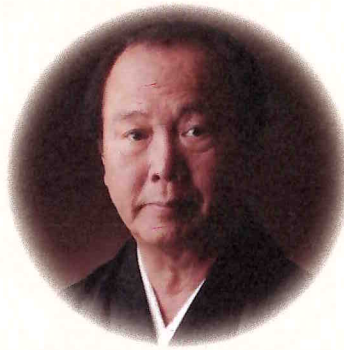
しまのせんざい

島の千歳



大槻如電 作詞 五世村屋勘五郎 作曲
明治三十七年初演

島の千歳とは「賤のおだまき」の静御前と同じく、白拍子の名手と伝えられる女性の名です。白拍子とは平安末期から鎌倉時代にかけて流行した芸能の一つで、女性でありながら直垂、立烏帽子に白鞘巻の刀を差した男装で、鼓などを伴奏に歌いながら舞ったものだったそうです。この曲はその舞をイメージし、長唄としてたいへん上品にまとめあげています。内容は「賤のおだまき」のように劇的なものではなく、朝日さす海原の孤島に丹頂鶴の姿が映るということに始まるたいへんおめでたいご祝儀的な曲です。唄、三味線に小鼓一調というのは、この曲独自のスタイルとなっていますが、そのシンプルさが逆に音楽の深みと広がりを生み出しています。



つるがわかのじょう

鶴賀若狭掾

新内節浄瑠璃 神楽坂在住

昭和13年7月11日、東京市牛込区神楽坂生まれ。幼少の頃より新内節の太夫(語り手)であった父の鶴賀伊勢太夫から、新内節浄瑠璃の手ほどきを受ける。昭和33年に鶴賀伊勢路太夫を名乗り本格的に新内節太夫の活動を始めた。昭和48年に鶴賀伊勢太夫を、平成12

年に鶴賀若狭掾を襲名し11代目鶴賀流家元となる。新内節協理理事長に就任し、新内節の普及発展に尽力、後継者の育成に努める。古典の発掘と新曲の創作で新内の魅力を上げ、また、日々技芸の研鑽に努め、伝統的新内節浄瑠璃の技芸を高度に的確に表現し、かつ、これに精通し、平成13年、重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受ける。平成17年天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ天覧リサイタル開催。平成21年旭日小綬章を授与される。海外講演40数か国。文化庁文化交流使。

とうかいどうちゅうひざくりげ

東海道中膝栗毛



江戸時代の滑稽もの。十返舎一九の作品を題材にした、弥次さん喜多さんの珍道中の物語。ところは、御油の宿のはずれの並木道。弥次さんが狐の面をかぶって喜多さんを脅かしてからかいます。そして日も暮れた頃、お墓にさしかかった2人に、お遣い帰りの小僧が近寄ってきます。これを幽霊と勘違いした弥次さんは……。

500名を無料ご招待(先着順・自由席)

【対象】

区内在住・在勤・在学の方(小学生から入場可)

【申込方法】

往復はがきの**往信用裏面**に、

①公演名「新宿区名誉区民競演会」

②氏名

③千・住所

④電話番号

⑤希望人数(4名まで)

⑥在勤・在学の場合は名称と所在地

を明記の上、新宿文化センターへご応募ください。

(**返信用表面にも**住所・氏名を明記)

※10月1日から、郵便料金の改定により往復はがきは126円になります。

※新宿文化センターウェブサイトからも申し込みできます。

【交通】

都営大江戸線・東京メトロ副都心線
『東新宿駅』A3出口より徒歩5分

東京メトロ丸ノ内線・副都心線
『新宿三丁目駅』E1出口より徒歩7分

都営新宿線
『新宿三丁目駅』C7出口より徒歩10分

JR・小田急線・京王線
『新宿駅』東口より徒歩15分

西武新宿線
『西武新宿駅』より徒歩15分

主催：公益財団法人新宿未来創造財団

《お問合せ先》新宿区立新宿文化センター

<https://www.regasu-shinjuku.or.jp/bunka-center/>

〒160-0022 新宿区新宿6-14-1 Tel: 03-3350-1141

休館日：原則毎月第2火曜日(令和元年9月については第3火曜日)

